

札幌市立信濃中学校 学校だより

信 濃 中

特列号 令和元年11月28日発行

全国平均との差を以下のように表記しています。

「上回っている」=+3.1pt(ホィット)以上

「ほぼ同程度であるが、やや上回る」

=+3.0ptの範囲内で全国平均以上

「ほぼ同程度」=全国平均と同じ

「ほぼ同程度であるが、やや下回る」

=-3.0ptの範囲内で全国平均以下

「下回っている」=-3.1pt以下

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に、3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の、本校調査結果の概要がまとまりましたのでお知らせします。

【国語】 教科に関する調査の結果概要及び改善の方向について

本校の概要

【領域】

- 「話すこと・聞くこと」の平均正答率
・全国平均に比べて下回っている。
- 「書くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「読むこと」の平均正答率
・全国平均に比べて下回っている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 相手にわかりやすく伝える表現について理解すること。
- 伝えたい事柄に対して、根拠を明確にして書くこと。
- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を的確に捉えること。
- 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること。

改善の方向

- 自分の考えを分かりやすく伝えるためには、話合いの話題や方向性を捉えた上で、話題に対する自分の立場を明確にすることが大切であることを自覚させる学習活動を行う。
- 自分の考えと根拠のつながりが分かるように書く学習活動を充実させる。
- 目的意識をもち、分析や比較などにより、必要な情報を整理するような学習機会を増やす。
- 具体的な場面を取り上げ、場面や状況に応じた活用の仕方を考えるような学習機会を設定する。

【数学】 教科に関する調査の結果概要及び改善の方向について

本校の概要

【領域】

- 「数と式」の平均正答率
 - ・ 全国平均を下回っている。

- 「図形」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「関数」の平均正答率
 - ・ 全国平均を下回っている。

- 「資料の活用」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

- 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。
- 与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えること。

- 証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解していること。

- 反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと。
- 事象に即して解釈したことを、数学的に表現すること。

- 問題となる資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

改善の方向

- 方程式を解く場面における等式の性質の使い方について、理解しているかどうかを確認する場面を設定する。
- 与えられた事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明するような活動を行う。

- 三角形の合同条件を成り立たせる辺や角の関係を、図と対応して捉えさせる活動を取り入れる。

- 表と式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉えさせるような活動を充実させる。
- 反比例の表から、 x の値と y の値の積が常に一定の値になることや、その値が比例定数であることを確認する場面を設定する。

- 代表値を求めたり、データの分布を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉え、批判的に考察し判断できるように指導する場面を設定する。

【英語】 教科に関する調査の結果概要及び改善の方向について

本校の概要

【領域】

- 「聞くこと」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

- 「読むこと」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 「書くこと」の平均正答率
 - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

- 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができること。
- まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解すること。

- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること。

- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在の肯定文や否定文を正確に書くことができる。

改善の方向

- 数字や曜日、月などの発音の基本的な知識を身に付けて、お互いの誕生日を聞いたり、行事について話し合ったりする活動を繰り返し行う。

- 絵やグラフなどの資料を含む英文を読み取る活動や、広告・メニュー・メモなど様々な形式の英語を読み取る活動を充実させる。

- 憧れの人物や友達を紹介するなど、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動を充実させる。
- 生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気付いたり修正を加える活動を充実させる。

【参考】

□ 「話すこと」領域

※ 「話すこと」領域の平均正答率については、今回は参考値として扱うよう国から示されているため、全国平均との比較は行わず、設問ごとの分析から分かる、課題と改善の方向のみ掲載しています。

- 交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答すること

- 月日に関する基本的な表現を理解して、応答すること。

- 語と語の連結による音変化や、語や句、文における強勢等を意識しながら聞いたり話す活動を充実させる。

- 全員で今日の日付を言わせて終わるだけでなく、個々の生徒とやり取りする中で日付を発話させるなどの活動を取り入れる。

【質問紙調査】

今回の調査では、国語・数学・英語以外に、基本的な生活習慣から、学校生活、学習状況など多岐にわたる内容の質問があわせて実施されています。本校の結果に関する分析では、**概ね全国の結果と同じ傾向**が見られましたが、「**全国平均と比べて、本校生徒の特徴となる設問**」と「**調査結果からの考察**」を紹介します。

【肯定的回答が多く 好ましいと思える点】

○人が困っているときに、進んで助けようとする

本校生徒の日常的な活動の姿を見ていると、「他人を温かい気持ちで受け入れる」という姿勢が身に付いている生徒が多いと感じます。登下校途中に、困っている人を助けたことで（雪道で埋まって立ち往生していた車を押す、路上で体調が悪そうにしている人に声をかけるなど）、お礼の電話をいただいたことも何度かありました。また、今年度から始めた「登校時の清掃活動」や昨年度から本格的に始めた「除雪ボランティア」の活動に前向きに取り組んでいる生徒もいて、地域からも感謝されています。

○人の役に立つ人間になりたいと思う

信濃中学校の多くの生徒は、学校行事や部活動に対して「自分の役割」を自覚して取り組んでいます。「集団のために全力を尽くす」という献身的な姿勢が、学校生活の随所で見られますので、この雰囲気在今后も大切にしていきたいと思います。

○読書が好きである

1週間の読書時間も、全国平均に比べて長く、朝の10分間を利用しての継続的な読書活動により、本を読むことを通じて見聞を広めようとする意識が育っている生徒が多いようです。学校の図書館利用者数も、ここ数年増加傾向が見られます。読書時間や学習時間を奪う可能性がある、スマホ・パソコンなどの利用時間は今回の調査にはありませんでしたが、家庭でも使用時間などのルールを決めていただければと考えています。

【課題と考えられる点】

●家庭での学習時間

家庭学習の習慣を定着させるために、小学校との連携も大切にしながら取り組んでいるところです。基礎学力向上週間を年間で5回設定し、家庭学習の必要性を認識させたり、「分かる喜び」を実感する授業の継続によって、自発的に「もっと調べてみよう」という気持ちになれるような働きかけを行っています。まだ、十分な効果が表れていない面もありますので、家庭でも「まほうのかいわ」のリーフレット（5月に各家庭に配付）などを活用して、「学習習慣を身に付けることの重要性」についてお話をいただければと思います。

●学校・学級生活をよりよくするための話し合い活動

「生徒間での話し合いにより、いろいろな課題を解決している」という質問に対して、否定的な回答が3分の1程度いました。1年間の学級活動を通して、話し合いの場は意図的に設定していますが、より質の高い話し合い活動の場を、十分に提供できていなかったことは反省点です。今年度からは「道徳科」が新設され、話し合い活動も積極的に取り入れています。自分の意見を主張したり、他人の考え方に耳を傾けながら、多面的・多角的に物事を考える姿勢を育てていきたいと思っています。